日本医療機能評価機構認定病院

岡病院だより

Vol.76
令和５年７月１日発行

トピックス

～睡眠時無呼吸症候群～

睡眠時無呼吸症候群は眠り出すと呼吸が止まってしまう病気です。呼吸が止まると血液中の酸素濃度が低下するため、目が覚めて再び呼吸し始めますが、眠り出すとまた止まってしまいます。

これを一晩中繰り返すため、深い睡眠がまったくとれなくなり、日中に強い眠気が出現します。酸素濃度が下がるため、これを補うために心臓の働きが強まり、高血圧となります。酸素濃度の低下により動脈硬化も進み、心筋梗塞や脳梗塞を起こしやすくなります。

1時間あたり10秒以上の呼吸停止が20回以上出現するような中等症・重症の睡眠時無呼吸症候群を放置すると、心筋梗塞・脳梗塞・生活習慣病・眠気による事故などを引き起こし、死亡率が非常に高くなるため、すぐに治療が必要です。

ひどいイビキ、睡眠中の呼吸停止がある場合には速やかに専門の医療機関で検査・治療を受けることが大切です。

「百人一首」

医療法人桂水会　岡病院
医師　藤岡　考之

私にはかねてより誰かに伝えておきたいと思っていたことがあります。中学生の頃に教わったことですが､私にとっては百人一首や和歌の歴史を身近に感じられるきっかけになりました。普段話題にできることでもなく殆ど話したこともありませんでしたが、これらの話はその後も殆ど読んだことも聞いたこともありませんので書き残しておくことにします。

日本の古典文学の中でも和歌には大変長い歴史があります。万葉集は７世紀前半から759年迄の130年間に作られた歌が収録されており、奈良時代末期に大伴家持が関与して完成したとされています。小倉百人一首は13世紀前半の平安時代末期から鎌倉時代初期に藤原定家が選んだとされます。百人一首はかるたやその他の娯楽として親しまれていましたので、多くの方が存在くらいはご存じのことと思います。百人一首には万葉集に収録されていた歌も含まれていますが、これらは古今集から新古今和歌集にかけての勅撰和歌集に再収録されたものから選ばれています。万葉集の時代の歌は直截的で、素直な感動を詠んだものが多く、天皇から庶民に至るまでの歌も見られます。平安時代には宮廷､貴族階級で日常的にも歌われるようになり、枕詞、掛詞、本歌取りなど技巧や詠んだ時の響きなどより洗練されています。このため万葉集から再収録された歌には当時の感性により修正が施されたものも少なくありません。万葉集の時代の歌で百人一首に選ばれた歌に関して、教わったことを思い出しながら書いてみます。

百人一首の一番目は天智天皇の「秋の田の　刈穂の庵の　苫をあらみ　わが衣では　露にぬれつつ」です。稲刈りした穂を保管する小屋の屋根が荒れているので、私の袖が露に濡れてしまうという意味です。私の父は一度だけでしたが、天皇がこのような小屋にいることは普通では考えられない。これは天智天皇がこっそり逢引きをした時のことを詠んだのだろうと話してくれました。なるほどと思いその時以来自分ではそれを信じていますが、この歌は後撰集からの引用で万葉集に内容が似た歌があるものの、読み人知らずとありますので天智天皇の自作ではないのかもしれませんが、天智天皇の人目を忍ぶ恋を想像しながらこの説を信じています。

百人一首にみられる万葉歌人の歌は平安時代末期に古今和歌集から新古今和歌集に至る勅撰和歌集に収載されたものが引用されています。平安時代には和歌はより洗練され、響きの滑らかさや技巧が重視され、万葉集にみられる歌がこの時代の感覚で修正が施されていることもあります。また枕詞は奈良時代にはまだ成立していないのでそのままの意味を持ちますが、平安時代には枕詞は定型句となっているため意味はないと考えられます。

持統天皇の歌は百人一首では新古今和歌集に収載された「春過ぎて　夏来にけらし　白妙の衣ほすてふ　天の香具山」ですが、万葉集では「春過ぎて　夏来るらし　しろたえの　衣乾したり　天の香具山」とあります。平安時代の「白妙の」は枕詞ですので白いの意味は希薄です

が､万葉集では白い衣が乾されていることが重要なのです。「夏きたるらし」が「夏きにけらし」に、「衣乾したり」が「衣ほすてふ（ちょう)」に修正されたことで、声に出して読んだ時の滑らかさに違いが感じられます。このように比べてみると、平安時代の和歌における感性が万葉集の時代とは変わっていったことが感じられます。平安時代の歌はより繊細で、技巧的な言葉の遊びが重視されているのに比べ、奈良時代は直截的な素直な歌であることが感じられると思います。

山部赤人の歌は大変有名ですので誰でも一度は目にされたことがあると思います。百人一首では「田子の浦に　うち出てみれば　白妙の　富士の高嶺に　雪は降りつつ」で、これも新古今和歌集に収載された時に修正されたものを引用されています。万葉集では「田子の浦ゆ　うち出てみれば　真白にぞ　富士の高嶺に　雪は降りける」で、「真白にぞ」のような強い響きは平安時代には避けられたようです。「富士の高嶺に雪は降りける」は雪が降ったという過去形ですので、降り積もった雪が真っ白に見えたことの感動を詠んだ歌です。このため真っ白いことは山部赤人の目に映った情景として重要な要素です。百人一首の「白妙の」は平安時代では雪の枕詞ですから意味は持ちませんし、雪は降りつつは現在進行形ですので今も雪が降っていることになります。雪が降っているときは雲に隠れて山は見えないはずですから、平安時代の歌人は実際の景色を見た訳ではないと考えられます。現実よりも言葉の響きを重んじた修正を行っているように思います。「田子の浦ゆ」を「田子の浦に」換えたのも声にして詠んだ時の響きの違いがあったのだと思いますが、こちらは意味も変わってきます。「ゆ」は経由のゆですので、田子の浦を通って海に出てみたらという意味で、田子の浦から見たのではないことになります。「田子の浦に」は別のところから田子の浦に入ってきたことになりますので田子の浦から見たことになります。これを教えてくれた中学時代の先生は田子の浦からは富士山は見えないそうだと仰っていました。山部赤人は実際に田子の浦を旅してこの歌を詠んだと思います。百人一首の歌も情景を浮かべることができるような名歌と思いますが、こうして比較してみると万葉集の秀歌を平安時代の歌集に載せる際に、時代の趣向にそった修正を加えたのでしょうが、京都に居たままで技巧をもてあそんでいるようにも感じられます。その意味で万葉集は素朴で力強い和歌の世界を感じることができるように思います。

万葉集の成立は奈良時代末期（759～780年）とされており、平仮名や片仮名が漢字から作られるのは平安時代ですので、万葉集は全文が漢字で表記されています。しかし純粋な漢文とは異なり、漢字本来の使い方と万葉仮名と呼ばれる仮名の代わりに漢字を用いた使い方が混在しています。先の山部赤人の歌の万葉集での原文は「田兒之浦從　打出而見者　眞白衣　不盡能高嶺尓　雪波零家留」と書かれています。残念ながら万葉集を原文で読むことは注釈なしではとても難解です。中にはパズルを解くような部分もあり、注釈自体が最初に作られた時の歌を一字一句正しく再現できている訳でもなさそうです。

百人一首の一部の歌から、飛鳥・奈良時代と平安時代の感性の違いのほんの一端を感じていただけたらと思います。

理　念

地域医療に貢献する。

基本方針

1　より高度な医療と看護の提供を目指す。
2　患者様の立場に立った医療を実践する。

私たち岡病院職員一同は上記を実践するために以下のとおり、努力致します。

1　職員一同は日々研鑽し、医療の質の向上とサービス・業務の改善に努めます。
2　内科の二次救急病院として、地域住民の健康と福祉に寄与致します。
3　透析施設を有する病院として、安全で快適な治療の提供に努めます。

患者様の権利と責務について

権　利

1　患者様は病状・治療方針について充分な説明を受け、診療情報を得る権利をもちます。
2　患者様は診療情報を理解する権利をもちます。
3　患者様は治療方針と医療機関を選ぶ権利をもちます。
4　患者様はプライバシーの配慮と秘密を守られる権利をもちます。
5　患者様は希望にて、他の専門医に意見を聞く権利をもちます。

責　務

1　患者様は当院に病状・既往歴（現況も含む）・保険情報・住所等、診療に必要な情報を正しく伝える責務をもちます。
2　患者様は当院のルールを守り、治療に協力する責務をもちます。

個人情報保護

当院は、個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。
個人情報の取り扱いについてお気づきの点は、窓口までお気軽にお申し出ください。

医療相談について

療養その他でのお悩みごとやお困りのこと、ご不明のこと等がございましたら医療相談室、薬剤相談室、食事相談室にてご相談をお受けいたします。

1階受付にて申し込み、又は担当の医師、看護師にお申し出下さい。

(公財)日本医療機能評価機構認定

OKA HOSPITAL

医療法人
桂水会　岡　病　院

〒367-0031　埼玉県本庄市北堀810番地
TEL 0495-24-8821(代)　FAX 0495-21-7640(代)
URL http://www.oka-hospital.jp/

発行日：令和5年7月1日　　発　行：岡病院　　編　集：広報委員会